

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500183		
法人名	医療法人 相愛会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう	ユニット名	ゆうゆう 南館
所在地	宮崎県小林市北西方字種子田原66-3		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&jigyosyoCd=4570500183-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は、梨園や山・田園に囲まれた自然の多い場所にあり、四季を肌で感じる事の出来る場所に位置しています。勤務している職員は、利用者の方と接する時に、本人の話を傾け、思いやりと優しさを持って接する事を心掛けています。また、利用者の方の生活歴を大切に、日々その人らしさの生活が送れるよう、ケアのあり方を考えながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム玄関入り口横には、ちようず鉢と竹製のひしゃくが置かれ、訪れる人を優しく迎えてくれる風情がある。梅干し作りやそば打ちなど、日本古来の食文化を利用者に教えてもらったり、利用者が若いころからなじんでいたハーモニカ演奏、生け花、陶芸等、利用者の持っている機能を生かし、楽しく笑顔の絶えない毎日が送れるよう、利用者と一緒に取り組んでいる。食の進まなかった利用者の一人は、使っていたスプーンを使い慣れたはしに変えたところ、自分で茶わんとはしを持ち、時間をかけながらもしっかりと食えることができた。職員は、利用者の言動を否定することなく、その内面に思いをはせながら、利用者との日々のかかわりに喜びを共有できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、管理者、職員が共通目的、目標を定め、実際のケアの場面で反映できるように勉強会を実施している。	地域との交流を大切にしながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者ができることを支援することを盛り込んだホーム独自の理念を作り上げている。職員は、日々の利用者への声かけや態度等を、毎月1回行われる会議で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、年間計画で参加しやすい企画を計画し、地域の方々に呼びかけを行い、交流を深めている。	ボランティアや中学生の体験学習の受け入れ、月見会、年末のそば打ちなど、季節の行事等には地域住民の参加が得られているが、隣近所の人たちが立ち寄ったり、地域活動に参加するなどの地域住民との積極的な交流は図られていない。	地域との交流を必要な時にだけ行うのではなく、共に暮らす地域住民の一員として、地域活動や人々とのかわり持つなど、更なる取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を対象に、認知症の理解と方法について、具体的な取り組みはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、構成委員の方々から様々な指導や助言を頂き、実際の現場で実践できるように取り組んでいる。	運営推進会議メンバーには、そば打ちなどのホーム行事にも参加してもらい、利用者との触れ合いがある。地域交流について、参加メンバーにアドバイスをもらい、回覧板でホーム行事への参加案内を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも、年間行事等に参加して頂く事により、入居者に対してどのような取り組みと支援を実施しているか、事業所の理解を深めてもらっている。	市職員は、運営推進会議メンバーでもあり、日ごろからホームに対して理解と協力が得られる関係づくりができており、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人教育研修や年間の勉強会にて、ある程度の理解はできているが、ケアの場面で拘束にあたるかあたらないかについて判断が難しい時は、会議の場で協議している。	管理者および職員は、利用者の人権を守ることが、ケアの基本であるということを認識している。勉強会でも、拘束模擬体験を取り入れるなど、拘束は行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、事業所内での虐待ケースの報告、疑わしい外傷等はないが、研修会で学ぶ機会が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を実際に活用している入居者がおられる為、その方々を通し、どのような制度なのか、会議の場で情報提供し、具体的な支援内容を協議している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を活用し、家族が不安を抱かないよう、詳細に行っている。改定の際についても、その都度説明を行い、理解と同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な面談や面会時において、意見や要望を聞く機会を設定している。相談、苦情窓口については、担当者を決め提示している。また、各ユニットに意見箱の設置も行っている。		家族には、6か月ごとに行われる家族面談時や担当職員に気軽に意見や要望を言ってもらえるよう、雰囲気作りに努めている。家族から、毎日ひげそりをして欲しいとの要望があり、プランにとり入れたことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一回の定期的な会議において、職員の意見を聞く機会を設定し、業務改善を図っている。		職員が、管理者に気軽に相談しやすい態勢がある。職員会議では、利用者の洗濯物乾燥器設置の要望や本ホームでの発生はないが、早目のノロウイルス、インフルエンザ対策が必要との提案が出され、早速取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績、勤務状況等の報告を行っている。外部研修への参加や資格取得に向けて、各自が向上心を持って働ける環境になっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象とした法人内・外での様々な研修参加の機会があり、常に参加を呼びかけ啓発している。また、勤続年数に応じて、認知症介護実践者研修等へ参加出来る機会がある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会主催の研修やブロック別研修会、交流会への参加を行い、ネットワーク作りを行っている。また、又法人内のネットワーク作りを積極的に行い、研修会の企画から運営、活動をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃のケアの場面で、本人の言動、行動から安心できる生活を確保出来るよう傾聴し、また、カンファレンスの場で、職員からいろんな情報を聞き取り、本人の家族、本人の同意を得て、サービスを導入している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な面談や面会時において、積極的にご家族とコミュニケーションを図り、家族の要望等に耳を傾け、改善に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている支援や他のサービス等、利用も視野に入れ対応できるように取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残された機能が発揮できるように、できること、できないことについて場面をしっかりと見極め、職員が一方的に支援するのではなく、本人から学ぶ姿勢で日々共同生活を送っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望や家族の思いを大切にしながら、また、一緒に過ごせる時間を設定し、互いに支える関係を築けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある店で買い物したり、以前住んでいた地域をドライブで訪れるなど、支援している。また、家族の方と疎遠にならないよう、交流出来る機会を設けている。		家族の協力を得て、墓参りや初詣では近くの金松法然さんに、車いす利用者も一緒に、ろうそくやお線香を上げてお参りしている。また、隣接するデイサービスセンターに来所される方々の中には顔なじみの方もおり、懐かしい再会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が交流出来るよう、共同生活の場では、テーブル席を一緒にし、入居者が仲間作り出来るよう支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内・外の事業所との連携を図っている 事の説明を行い、サービス利用が終了しても、その後の経過を把握し、適切なサービス利用が出来るように支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、触れ合いを通してながら、要望や意向を把握し、実際に実現可能な職員と御家族で話し合い、取り組んでいる。		利用者の表情や反応を見ながら、声かけをしている。利用者の行動を制限せず、行動を共にしながら、利用者の表情に笑顔が出た時は、職員自身も喜びを共に味わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣、趣味が継続して出来るよう、自宅訪問や本人、家族から情報収集し、生活の場面で反映している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身の状態、出来る事・出来ない事・気付いた点を記録し、申し送りや会議の中で話すようにし、把握出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを通して、課題とケアのあり方について、本人・ご家族と話をしている。それぞれの意見やアイデアを反映出来るように取り組んでいる。状況に応じて、併設の専門職等に相談・アドバイスをもらっている。		介護計画は、6か月、3か月の定期的見直しと利用者の状況や家族の意見を考慮しながら、随時の見直しを行っている。職員間で、情報を共有しながら、現状に即した介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について、具体的な記述を経時的に毎日、パソコン入力し、記載者誰もが常時閲覧でき、情報の共有が図れている。また、申し送りや伝達ノートを活用し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用・通所介護など、要望に応じた体制を整えているが、実際の利用までには至っていない。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店やスーパーマーケット等を利用する機会を設け、入居者の要望に応じて、市外の店に出掛けることもある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の健康状態に応じて、その都度本人・家族と協議し、出来るだけ意向に添えるよう支援している。また、定期的に受診出来るように、通院介助を行っている。		利用者、家族の掛かりつけ医を支援している。受診の家族同行時は、利用者の日々の状況を口頭、又は文書により提供し、受診後は、内服薬の変更など、利用者に関する情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、日常の関わりの中での情報や気づきを報告し、適切な受診や主治医との連携が出来ている。また、併設の看護師への相談・連携が出来る体制が整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、病院関係者と事業所が適切な情報交換が出来るように、サマリーを活用している。入院した場合の経過等についての情報共有が出来ており、入・退院の時期について、相談出来る関係作りができています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の都度、病状の確認を行い、早い段階から終末期に対する意向の確認や主治医からの十分な説明を交えながら、職員全体で情報を共有し、出来る限りの支援を行っている。		看取りの指針を整備している。利用者、家族には、入居当初からホームで対応できることを説明している。方針をチームで話し合い、医師、職員が連携を取り、随時確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修の参加により、急変時における対応方法の訓練を定期的に行っている。また、個々の入居者の急変に備えた対応方法についても、会議等で話し合う機会を設けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練は実施出来ているが、地域の方との協力体制については十分に築けていない。		昼夜を想定した定期的な自主避難訓練は実施しているが、近隣住民や地区消防団を交えた訓練は行っていない。	災害時は、職員だけで行う誘導の限界を踏まえて、地域の人々の協力が実際に得られるよう、日ごろから話し合い、一緒に訓練を行うなど、実践的な取組を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに尊厳を持って接し、その人らしく生活が送れるように、介護計画書を通して、実際のケアの場面で反映できるように取り組んでいる。叱責する事なく、しっかりと訴えを傾聴し、その人に寄り添うケアを心掛けている。		職員は、利用者の誇りやプライバシー確保について認識している。利用者の言動を否定することなく、言動の奥にあるものを想定するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	失語等の障害により、言いたい事を上手く表現できない方に対し、職員が言動・行動から察し、代弁者として働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、入居者本位の生活を日々心掛けているが、業務を優先する場面が見られる事がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るように、出来る限り着衣する時は自分で選んでもらい、出来ない部分については、サポートを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	よりいっそう美味しくいただけるように、適度な運動と入居者の嗜好に合った料理を提供できるように、入居者と一緒に何を作るか考え、一緒に買い物に行き、調理する手順を職員と一緒にやっている。		昼食は、厨房からの配食である。夕食は利用者の好みを取り入れたり、できることを手伝ってもらいながら一緒に買った食材を調理している。利用者と職員が同じテーブルを囲んで、同じものを食べながら、楽しく食事できる雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。カロリーや栄養バランスは、併設の介護老人保健施設の栄養士に助言をもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最低でも1日に1回は、歯の口腔ケアが実施できるように取り組んでいるが、口腔ケアを嫌がり拒否される事がある為、声かけのタイミング等を考え、また、うがいのみ実施できるように工夫しながら取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、経時的に排泄チェック表を用い、パターンを把握しながら、個別に応じた排泄手段の検討を行い、出来るだけおむつを使用しない支援を行っている。		排せつチェック表を利用している。昼間は、トイレでの排せつやオムツをしないで済む暮らしを心掛けている。入居当初は、オムツを使用していた利用者が、布パンツを使用できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に至る原因をその都度アセスメントし、適切な水分の補給や随時、主治医や看護師と連携を図り、対応策を検討している。また、日々の日課の中で、適切な運動が出来るよう取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度設定しているが、その時間にしばられることなく、個別の希望に応じて対応し、拒否の強い方に対しては、その都度職員間で協議し、情緒面、声かけを工夫しながら支援を行っている。		利用者は、その日の気分や体調に合わせて、毎日入浴できる支援体制がある。入浴拒否をされる方の主な理由は、脱衣することにあるので、一人ひとりに合った声かけをするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの心身の状況に合わせて、有意義な余暇時間が過ごせるよう取り組み、夜間は気持ち良く眠れるように室温、湿度に配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法や用量について、確認出来るようにカルテにファイルしている。内服変更や臨時薬の処方の際は、経過記録を残し、変化がないか確認をしている。看護師より、副作用や観察の視点について申し送り表へ記入してもらい、職員が閲覧できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴と出来る事、出来ない事を把握し、昔からの趣味、特技を活かせることができるように介護計画書に取り込み、日々気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や入居者の要望に応じて、普段は遠方で行けない店や公園などの社会資源を活用し、家族の協力をもらいながら、一緒に出掛け、季節を肌で感じてもらうことができています。		日当たりの良い玄関横には、きれいに咲いたパンジーのプランターと長いすが置かれ、利用者が職員に付き添われて、ひなたぼっこをしている。洗濯物の取り入れや近隣の散歩、職員、又は家族と一緒に、外食に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	ゆうゆう 南館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日の買い物を通し、利用者に自由に選択してもらい、レジにて実際、支払いをして頂いたり、個人管理出来る方は、少額の金額を所持してもらい、出し入れを職員と共に確認している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方に対しては、事前に家族に了承を得てから、手紙や電話のやりとりが出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、季節感のある花、草花を飾り、居室の窓からは、外の景色が一望出来るようになっている。		利用者が集う居間は、天窓からの採光とエアコンの程良い暖房で、居心地がよく過ごせる配慮がある。壁には、B5サイズ用紙の日めくり暦と大きな文字盤の時計が掛けられ、利用者本位の配慮がある。トイレには、利用者が使いやすい位置に手ふきペーパーが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用生活の空間では、気の合う利用者同士が一緒に過ごせるよう、テーブルを配置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活から、馴染みのある生活用品を事業所の居室に置き、環境の変化によるダメージを最小限に抑えるように工夫しているが、本人持ちの家具類が少ない利用者の居室がある。		居室には、仲の良かった妹の遺影や仏具、家族の写真、絵手紙、ラジオ、いす等が置かれ、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。昼食後、利用者の一人は、居合わせた職員や他の利用者に、「さようなら」と言って自分の居室に入って行かれるほど、自分の居場所として認識し、その方らしく暮らしている様子があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時において、障害物とならないよう、物の配置については配慮しており、夜間帯は、廊下に照明灯を設置して、転倒の危険を取り除いている。			